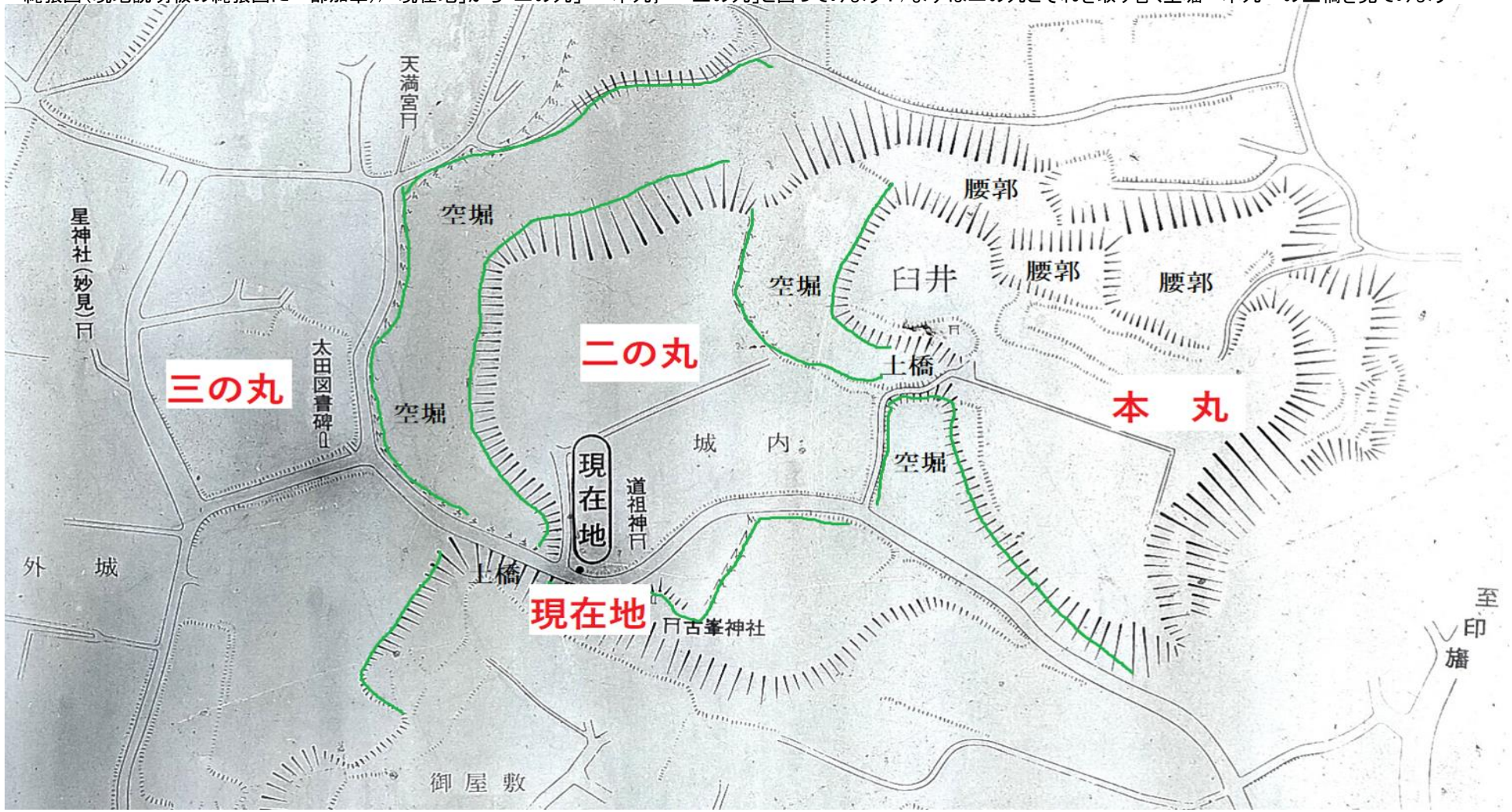
臼井城跡（佐倉市）

縄張図（現地説明板の縄張図に一部加筆）/「現在地」から「二の丸」～「本丸」～「三の丸」と回ってみよう！/まずは二の丸とそれを取り巻く空堀～本丸への土橋を見てみよう



ここが「現在地」/三の丸方向（左手）から土橋を渡って二の丸へ入る虎口と思われる/標柱や説明板が立っている video

「臼井城跡」と刻まれた標柱

南北朝時代に臼井興胤が築城/文明10年（1478年）の境根原合戦で千葉孝胤は、太田道灌の後ろ盾を得た千葉自胤と戦い籠城、道灌の弟資忠が討死するという事態が起きた

臼井城跡

千葉氏の一族臼井六郎常康が臼井に居を構え、臼井氏の中興の祖といわれる興胤（十四世紀中頃）の代に、この城の基礎がおかれたと伝えられる。現在の遺構は十五世紀以降のものと考えられるが城跡は本丸、二ノ丸を中心として、空堀、土塁等の旧態をよく残している。

戦国時代の末期には原氏が城主であったが、天正十八年（一五九〇）小田原落城により、千葉氏とともに滅んだ。以後酒井家次三万石の居城となって、慶長九年（一六〇四）の転封まで使用された。太田道灌・上杉謙信の軍との攻防戦は有名である。

昭和六十二年三月

佐倉市教育委員会

名勝・臼井八景

城嶺夕照

いく夕べ入日を峯に送るらん

むかしの遠くなれる古跡

永久二年（一一一四）に千葉常兼の三男常康が初めて臼井の地を治めて以来、十六代臼井久胤までの約四百五十年間、臼井氏は長くこの地の領主であった。その後臼井城は原氏や徳川家康の部将酒井家次の居城となったが、文禄三年（一五九三）の火事によって、この台地にあった城廓は焼失してしまった。「臼井八景」は、それからおよそ百年後の元禄期に作られたものである。臼井久胤の玄孫にあたる「臼井八景」の作者は、夕映えの美しい城跡の嶺に立って、自分の祖先が臼井城の城主であった頃の遠い昔を偲びながら、感慨深く前掲の歌を作り上げたものである。

城跡の近くには、往時の土塁や空堀の一部が今でも昔のままに残っている。本丸跡の発掘調査により、十五世紀の中国・明時代の陶磁器の破片や、城が火事になった時の焼け米などが発見されている。

北側の山裾には、第六代城主臼井興胤が一三三九年に創建した瑞湖山円応寺がある。また空堀の近くには、文明十一年（一四七九）に臼井城を攻めて討死した太田道灌の弟・図書の墓がある。

題字　佐倉市長　菊間健夫

撰文　五原三丸男

ここがニの丸/南側から見たところ

video

同じく、西側から見たところ/周囲は空堀が取り巻いている

video

背後の空堀

video

南側の城塁下の道路を見たところ/ここは当時は切岸の状態だったのであろうか

video

これは縄張図にもある道祖神

二の丸を取り巻く北側の空堀/西側から東方向に見たところ

video

そこで、空堀に下りてみたところ/西側から東方向に見たところ

video

反対に東側から西方向を見たところ

video

説明板が立っている

video

土橋（どばし）

土橋は、空堀（からぼり）によって区切られたⅠ郭（かく）の坂（さか）虎口（こぐち）（出入口）とⅡ郭を結ぶ通路の役目を果たしていました。

土橋の幅を狭くすることで、一度に多勢の敵が渡れなくなります。さらに、曲った坂をつけて敵の進む速度を低下させ、北にあるⅠ郭の土塁（どるい）上から側面攻撃を受けやすくなるように工夫されています。

現在は、盛土によって覆い、保存しております。

公園整備前の土橋

臼井城跡地形図

平成十二年三月

佐倉市教育委員会

ここが二の丸から本丸への土橋

video

土橋の先が本丸の虎口

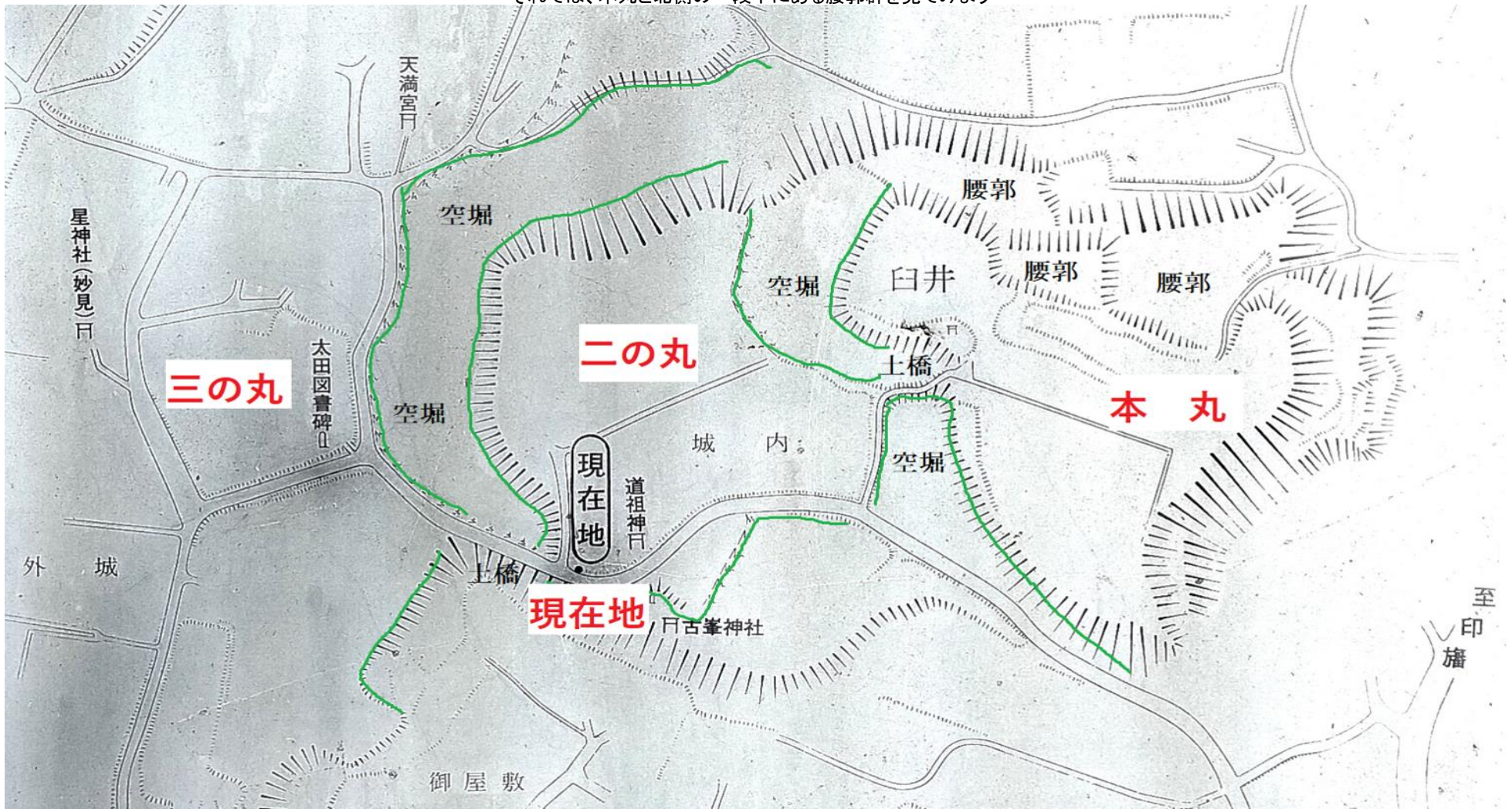
同じく、左手の空堀下から土橋を見たところ

video

右手の空堀下から土橋を見たところ

video

それでは、本丸と北側の一段下にある腰郭群を見てみよう



本丸虎口

video

本丸から振り返って、二の丸方向を見たところ

video

左手の土墨

右手の土塁/土塁の右手は縄張図で「臼井」と記された平場

右手の土墨に登ってみよう

土墨の頂部

video

そこで、左下の土橋を見下ろしたところ

video

これは土塁を右下に下りて、縄張図で「臼井」と記された平場を東側から西方向に見たところ/ここも本丸のエリアの一部 video

本丸/西側から東方向を見たところ

同じく、南側から北方向を見たところ

video

背後は京成臼井駅の町並み

左前方に見えるのは印旛沼/右手に本丸周囲の土塁が見える/西側から東方向を見たところ video

そこで、右手に振り返ると低い土塁が続いている

video

土塁の下はこんな急峻な城塁（切岸）となっている

video

これは西側の虎口付近の土塁

video

東側から西方向に見た本丸

video

そこで、振り返ると印旛沼が見える

video

さて、この下に北側の腰郭群がある

video

階段を降りて、振り返って見たところ/正面前方に石垣が見える

video

アップで見たところ

そこで、右手を見たところ/手前の平場と、左奥の一段上がった平場がそれぞれ腰郭で、更に奥の右下にもう一つ腰郭がある video

手前の腰郭を反対側から見たところ

video

ここが左奥の一段上がった腰郭/東側から西方向を見たところ

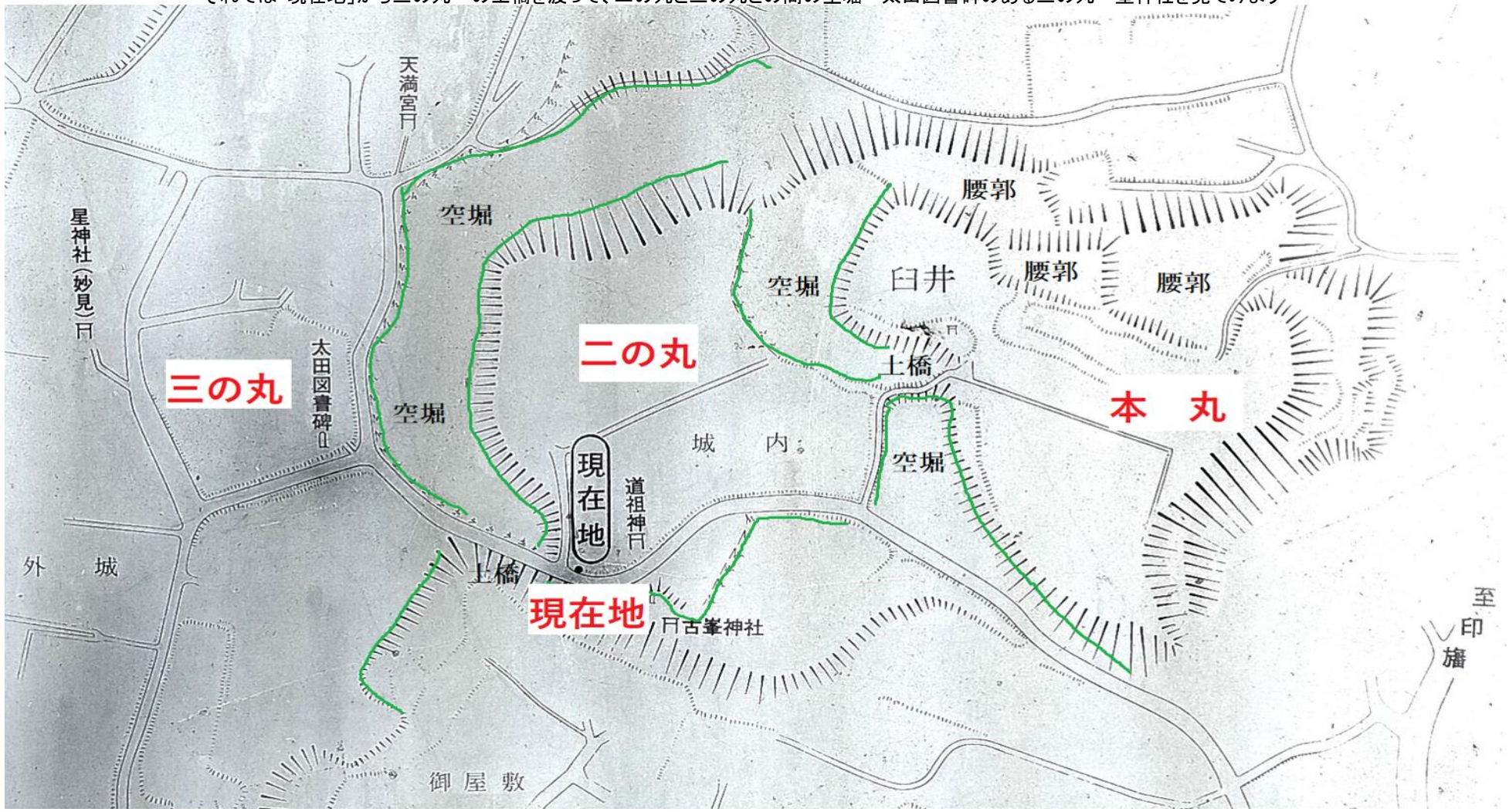
video

その腰郭で、北方向を見下ろすと、もう一つの腰郭が見えた

video

先程の階段を東方向に下りて行くと、「臼井城址公園」の看板が立っていた/このルートは搦手だったのかもしれない video

それでは「現在地」から三の丸への土橋を渡って、二の丸と三の丸との間の空堀～太田図書碑のある三の丸～星神社を見てみよう



三の丸への土橋

video

右手の空堀

video

同じく、左手の空堀

video

土橋を渡って、振り返って二の丸方向を見たところ

そこで振り返ると、土塁の上に石碑があり、説明板が立っている

video

その右手を見ると、二の丸と三の丸との間の空堀が続いている

video

これが太田図書碑

video

太田図書の墓

室町時代の中期、千葉氏一族は、古河公方と管領上杉氏との抗争に巻き込まれ、二派に分かれて争った。

文明十年(一四七八)十二月、上杉方の太田道灌は、公方方の千葉孝胤(のりたね)を境根原の(松戸市小金)戦いで敗り、敗退した孝胤勢は、一族の臼井持胤・俊胤の守る臼井城へ逃げ帰った。

翌文明十一年(一四七九)正月、道灌の弟太田図書助資忠と千葉自胤(武蔵千葉氏)の軍勢が臼井城を包囲したが、城の防備があまりに堅固なため、一旦引揚げようとした。その時、城兵がどっと討って出て太田勢と、激しい戦となり、遂に落城したが、図書助外五十三人がこの地で討死したという。

臼井田環境整備委員会

「太田圖書之墓」と刻まれている/背後が三の丸

video

ここが三の丸/縄張図では三の丸の下（南側）に「外城」、「御屋敷」と記されており、大手は左下から三の丸へ入るルートであったようだ video

こちらが三の丸の西側に所在する星神社

video

星神社社殿/右手前に「星神社」と記された表示板があった

星神社

別名、「臼井妙見社」と呼ばれ、妙見社は千葉氏一族の守護神であったようだ　video

臼井妙見社（星神社）

臼井城築城の時、場内の鬼門の地に創建された社のひとつといわれているが縁起は明確でない。

祭礼は八月二十二日である。

妙見とは北斗七星を神格化したもので、鎮護国家、除災寿福の菩薩である。

千葉氏一族にとってはその祖平良文以来の守護神で、その所領には、必ず妙見をまつり尊崇したという。

一族の家紋である、「月星」「日月」「九曜」はこの妙見に由来しており

当神社の社紋ともなっている

なお妙見社下の八幡台に通じる道には

「左くすのきみち 右さくらみち」と刻まれた石仏道標がある。

これは赤子を抱いた子安漢音で側面に、

安政四丁巳（ひのとみ）（一八五七）と彫ってあり、

成田街道から楠の大木のあった八幡社

旧山王社へ入る道標を兼ねていた。

（氏子一同）

こちらは縄張図の左上に記されていた天満宮

こちらは縄張図の中央下に記されていた古峯神社

video

印旛日本医大
吉高の大桜
麻賀多神社本社
佐倉ラベンダーランド
順天堂大
八千代市
京成酒々井
千代中央
京成佐倉
京成本線
ユーカリが丘
勝田台
佐倉
佐倉市
16
61
263
64
65
296
262
155
51